

## 博物館の IPM (総合的有害生物管理) について

埼玉県立歴史と民俗の博物館 企画・学習支援担当 田中正夫

歴史と民俗の博物館の展示室やエントランスロビーでは、来館者の皆様にはご不便をおかけしておりますが、飲食はご遠慮いただいております。また、収蔵庫や展示室の近くには草木、特に生花を置かないようにしています。これは資料保存の観点からです。食べ物や水があれば虫が集まる可能性が増します。生花は人の心を癒してくれますが、虫も引き寄せます。生物学の先生から聞いたことですが、花は虫を集めるために花として進化したと。

IPM (総合的有害生物管理) は、虫やカビの被害から資料を守るためのシステムです。あらゆる有効な防除手段を合理的に併用して、生物被害の低減を目指して、有害生物の個体数を低減させていくためのシステムです。この IPM の一環として展示室やエントランスロビーでの飲食をご遠慮いただいているわけです。

その他にも様々な取り組みをしています。博物館に初めて入ってくる資料、例えば御寄贈いただいた資料や、購入した資料を収蔵庫に入れる前に殺虫処理をします。一つの方法は二酸化炭素処理と言って、被覆テントの中に一定程度の二酸化炭素を入れ、燻蒸するものです。この方法は成虫、蛹、幼虫、卵を死滅させますが、カビには効果がありません。

もう一つの方法は減圧滅菌装置によるガス燻蒸です。こちらの方法は成虫、蛹、幼虫、卵、カビに効果があります。カビの発生の危険性がある場合には、こちらの方法を用います。これらを初発燻蒸といいますが、収蔵庫に虫が入るリスクを減らすためにおこなうものです。これも IPM の一環です。

また、収蔵庫の定期清掃を行っています。月に2回全職員の協力を得て実施しているもので、資料に目を通し、虫による被害がないか、カビがないか確認し、塵やほこりを払っています。日本古来の曝涼(虫干し)と同じことを行っています。

ほかにも、館内のどこに、どれだけの文化財害虫(資料に被害を及ぼす害虫)がいるか定期的に、モニタリング(有害生物生息状況調査)しています。これを続けることで虫に対する館の弱点を見つけ対処しようとするものです。

日々の活動の中にも取り組みがあります。例えば収蔵庫や搬入口、出入り口の扉を開けっ放しにしないとか、収蔵庫近くの窓は開けないようにするとか。

IPMにはこれだけをやっていれば大丈夫というものはありません。日頃の些細なことと思われることの積み重ねが、虫やカビの被害のリスクを減らすことに繋がると考えています。IPMは担当者だけでできるものではありません。博物館にかかわる多くの方々の御理解が、最も大きな力になると思っています。

## 今後のイベントスケジュール

\*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- |           |                             |         |
|-----------|-----------------------------|---------|
| ○3月11日(日) | 講演会「保科正之と母(志津)の安産祈願文」       | <前号で紹介> |
| ○3月14日(水) | プレミアム講座「埋蔵文化財の保護について」       | <前号で紹介> |
| ○3月23日(金) | まち歩き研究会「浦和の“謎の地名”を探索する春の散歩」 | <前号で紹介> |
| ○3月31日(土) | 古道探索倶楽部「赤山街道 千住道 2」         | <今号で紹介> |
| ○4月15日(日) | 講演会「土器から見た日韓交流」             | <今号で紹介> |
| ○5月27日(日) | 総会・講演会「古写真でみる幕末・明治維新(仮)」    | <次号で紹介> |

### 見学会『早春の狭山丘陵歴史散歩』

平成30年(2018)/02/09に33名が参加

29年度6回目のバス見学会、眼目はシリーズで企画を続ける埼玉県内の地域博物館訪問です。狭山市立博は円形の1階ホールから壁に添ってらせん状のロープをたどり2階展示場へ上がる個性的な構造になっています。これは水路が整備される近世まで用水で苦勞した武蔵野台地を象徴するすり鉢状の井戸(通称まいまいず井戸)をイメージした造りとの事でした。展示場で目を引くのは170万年という遠い昔に生息していたアケボノ象の標本です。昭和60年に市域の入間川左岸でほぼ完形で発見された骨格化石をもとに復元されました。



茶畑にかこまれた砂川遺跡

所沢市埋蔵文化財センターは、古戦場で有名な小手

指ヶ原の一角にあります。東山道、鎌倉街道などの幹線古道が縦横に走っていた市内各地から、都市化の進展による開発工事で現れた膨大な出土品や調査記録が、このセンターで管理されています。大小の復元土器がならぶ収蔵庫や作業場を見学の後、スライドで発掘資料を中心に所沢の歴史を解説していただきました。センターの近くには旧石器時代の研究で著名な砂川遺跡があります。この遺跡から出土して明治大学に保管されている石器は国の重文に指定されました。数多い旧石器時代の遺跡の中で、遺跡公園として保存されている場所は県下では唯一、全国でも希少な例です。東方の低地に向って緩やかに傾斜する地形が読み取れる眺望の開けた気持ち良い遺跡でした。

所沢市南西部に広がる狭山丘陵、その谷地を利用して古代から稲作が営まれ、一帯は山口郷と呼ばれる市内では最も古い歴史を持つ地域です。ところがこれらの谷の内、特に大きな二つの谷が昭和の始め東京の上水用貯水池となりダムの中に沈みました。当時この谷には勝楽寺、堀口村があり282戸1720人が暮らしていました。見学会午後の部はこの山口郷を訪ね、湖底に沈んだ村々の痕跡と山口郷の歴史を辿ってみました。(中村均 記)

## 新年度「会員更新」手続きのお願い

- ◎平成30年度(2018/04~2019/03)友の会の会員募集を開始しております。更新がお済みでない現会員の皆様には継続更新のお手続きの程よろしくお願いたします。
- ◎この会報に「振替払込用紙」を同封致しましたのでお近くのゆうちょ銀行にて年会費2千円をお振り込みください。新しい会員証は次回の会報に同封してお届けいたします。

## 4月から新年度です。友の会の活動にご参加ください

- ◎友の会のすべての事業・運営は会員のボランティア活動で行われています。会報『JUNO』の製作や印刷、発送も会員が集まって毎月行っています。
- ◎簡単なことから事業(見学会、講演会、クラブ活動)の企画運営まで、あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。土日の友の会の受付へ、お声かけください。

## 玉敷神社神楽見学と騎西城跡を訪ねる (加須市)

友の会・お祭りクラブ 12月1日に開催

鴻巣駅及び加須駅からのバスに乗り、キャッスルきさい「福祉センター」に10時15分頃、12名が合流する。初めに騎西城跡を訪ねる。教科書には取り上げられていないが、騎西城を舞台にして上杉謙信が率いる軍勢と激しい攻防戦が繰り広げられたことが軍記物などで知ることができる。地図に基づき、二の丸跡・天神曲輪跡・御蔵屋敷跡・障子堀跡・土塁跡・的場跡そして、その先は広大な田んぼが見える大手門跡・元の玉敷神社があった場所を訪ねる。

12時20分頃、玉敷神社に到着。見事なイチョウのジュウタン景色は、別世界に足を踏み入れた感があった。昼食を摂り、神社への参拝や見学後、13時30分から15時までの神楽を鑑賞する。神楽の曲目には「古事記」「日本書紀」の神話を題材としたものが多く見られます。参加者は、代表的な曲目を取り上げたパンフレットを参考に、神話の世界をのぞいていました。寒い中、見学お疲れさまでした。(かなり省略。詳しくはブログで)



## 古道探索クラブ 赤山街道・千住道 その1

友の会・古道探索倶楽部 2月24日に開催



大雪の影響で延期された街道歩き。総勢24名、埼玉高速鉄道新井宿駅を出発して街道の起点である赤山陣屋敷跡を見学。ここから街道東側道を川口安行地区に。安行植木の元祖吉田権之丈の眠る古刹金剛寺に到着、この寺はお灸でも知られており、境内の1字1石経塚など見所多彩。街道沿いに川口市無形民俗文化財安行原藁造りの大きな蛇が木の上に飾られていた。新郷貝塚若宮公園に。広い園内あちこちに縄文時代の貝殻が散らばっていて数千年前はこの下までが海だったことが覗える。(略)。

普門寺ではご住職のご厚意によって秘仏正観音像を拝観することが出来た。見沼代用水東沿いを歩き埼玉と東京の県境を一跨ぎして舎人地区に、解

散地から本日最後のハイライトである舎人ライナーに乗りして帰還。(ブログもご覧ください)

### ◆第23回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道 千住道 2◆

2018(平成30)年3月31日(土)「古道探索倶楽部」

《日時》2018年(平成30年)3月31日(土) 9時30分~15時30分(予定)

《集合》日暮里舎人線 見沼代親水公園駅改札口周辺

《コース》見沼代親水公園駅⇒舎人諏訪神社⇒伊興遺跡⇒白幡塚史跡公園⇒竹ノ塚駅⇒常楽寺⇒増田橋⇒国土安穩寺⇒梅島駅⇒(東武伊勢崎線)⇒小菅駅⇒小菅御殿⇒小菅駅

《参加費》\*資料代等300円

《その他》少雨決行(悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約10kmで、史跡巡りをいれると12km。途中にコンビニが少ないので、お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。

《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

《参加申込み》3月21日(水)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて。

### ◆久伊豆神社の除堀ササラ獅子舞見学と文化財見学(久喜市・白岡市)◆

4月22日(日) 友の会「日本の祭り研究クラブ」第26回見学会のお知らせ(参加自由)

《名称》「久伊豆神社の除堀ササラ獅子舞見学」(久喜市菖蒲町)

《期日》2018年(平成30年)4月22日(日) 10時00分~15時00分:雨天決行

《集合》JR宇都宮線「白岡駅」改札出口 AM9時45分(バス「10時00分菖蒲仲橋行」乗車「神社前」下車)

《費用》交通費(電車・バス代等)、保険代他100円 《持物等》歩きやすい靴、飲物・昼食・カメラ・傘等

《内容》除堀の獅子舞は、除堀村の西の方にある古池から浮き上がった雌獅子を、村人が医王院に奉納し、雨乞いしたことが起源とされています。獅子連は、親方・副親方をはじめとして、50人ほどで1団を構成しています。除堀ササラ獅子舞は1人立・3頭連れ舞で、俗に「ささら」と呼ばれています。毎年4月19日前後の日曜日に五穀豊穰・悪疫退散・災厄消除を祈願し久伊豆神社を出て稲荷神社七社大権現・諏訪神社・久伊豆神社の順で舞を奉納しながら村回りをを行う。余裕があれば白岡市文化財散策(興善寺・白岡八幡神社他)予定。

《申込み》下記の連絡先までお願い致します。

《連絡先》元木孝 TEL:0493-54-0401 (携帯090-2259-1673) Eメール(qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

# 土器から見た古墳時代の 日韓交流

土器の製作技法の緻密な分析を通し日韓交流の一様相を描き出す

初期須恵器の特徴や製作技法の詳細な研究、朝鮮半島の政治情勢による土器の形式、文様の変化、日本列島と朝鮮半島諸国間の交流関係や渡来人の実態。なかでも、朝鮮半島の百濟・加耶・新羅、そして倭をめぐる当時の複雑な交流関係の解明と関わりを駒澤大学教授 酒井清治先生よりお話しをお聴きします。

講師 **酒井清治先生** 駒澤大学教授

日時 平成30年（2018年）4月15日（日）午後1時半～3時  
場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（東武野田線）  
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費 300円 当日は返信はがきをお持ちください。  
※釣銭のないようお願い致します。

申込み 往復はがきに 講演会名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号を明記し、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

締切 平成30年4月5日（木）（定員150名を超えた場合はお断りすることもあります）

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会